

洛友会会報

京都大学電気系専攻内
洛友会
〒615-8510
京都市西京区京都大学桂
075-383-7014
www.rakuyukai.org

卒業五十周年・北海道

洞爺湖サミットの年を迎えて

北海道支部長 中山道夫(昭33年卒)



彼岸ともなると、北国札幌の寒さも緩み、雪解けが目に見えて進みます。そして、本州からは桜の開花情報が聞かれるようになりました。3月19日には、札幌市内の小学校の卒業式が一齐に行われるなど、3月は春の訪れを告げると共に卒業の季節でもあります。我々が卒業したのは、昭和三十三年(一九五八年)、今年は丁度五十周年を迎えます。当時の卒業生は、電気五十人弱、

電子三十人弱、併せて七十数人であつたように記憶しています。なお、この内、電子工学科は第一回の卒業生です。この半世紀を振り返ってみれば、「光陰矢のごとし」と「過ぎてしまえば一場の夢」の二つの想いが輻射して胸中を過ぎります。この間の世の中の大きな変化としては、月並みな言い方になりますが、「科学技術の進歩と産業の革新を通じ、日本経済がオイルショックや公害問題などを克服しつつ右肩上がりの発展を続け、世界有数の経済大国となり、結果として高い生活水準を手にしたこと」「情報化とグローバル化の進展と、これらに伴う価値観の変化」などが挙げられます。

我々の世代は、仕事や立場は違つても何らかの形でそれらに関わり、充実感や達成感を味わつたことが、一つの共通体験となつていくような気がします。そして、卒業記念アルバムを開けば、教室主任であつた林先生の送別の辞にある様に学生時代を懐かしく思い出すと共に古希をすぎた今を顧みて、時がもたらした変化を思い、五十年の時間を改めて感じた次第です。我々の卒業五十周年の今年、二〇〇八年は、偶然にも、七月に「北海道洞爺湖サミット」が、八月に「北京オリンピック」が開催される年でもあります。特に「洞爺湖サミット」は、北海道にとつて一九七二年に札幌で開かれた「冬季オリンピック」以来の、大きな国際イベントであり、更に、地元北海道が誘致を願つた結果、昨年の四月二十三日に開催が決まつた経緯もあり、道民には自分達のサミットとして、何とか成功して欲しいとの想いが強く、官民挙げて支援に向けた取組みを進めています。まず、北海道庁に「サミット推進局」を設置すると共に、道庁に加えて、経済界、産業界、農林・水産業界、等の各界を網羅した道民一体の組織である「北海道洞爺湖サミット道民会議」を、高橋知

事を会長として立ち上げました。この道民会議は、
1) サミットの成功に向け万全の体制で支援協力をする。
2) 私たちが愛し誇りに思う北海道の魅力や、世界の人間に伝えること。
3) 開かれた心と細やかな気配りで世界のお客様をおもてなすこと。
4) より良い環境と交流の絆を子供たちの未来に引き継ぐこと。
この四つを命題として、民間企業・団体、自治体などが主体的に行動を進めるもので、その範囲は、サミットで求められる各種サービス、情報の提供、関連セミナー開催や支援、警備対策への協力等及び、既に活発な活動を行つていきます。そのほか変わった試みとして、北海道に関わりの深い作家、倉本聰氏の提唱による「ガイア・ナイト」があります。その内容は、「サミット九十九日前の三月三〇日十八時から二十時迄の間、電気を消して闇と向き合い、一本のロソクを囲んで家族や友人が集まり、語り合い、私たちが身を置いている文明社会を見つめ直す事意識を示そう」と言うものです。この試みは、自由参加、自主参

加ですが、準備は進んでいるようで、申込の形で参加の意思を示すウェブサイトも設けられ、相当数の人が参加するものとみられています。サミットが開かれるのは、多数の観光客が訪れる道内屈指の観光地洞爺湖、その西岸の小高い山の上に建ち、眼下に洞爺湖と内浦湾を見下ろす「ザ・ウインザーホテル洞爺湖リゾート」です。このホテルの最大の魅力は、全ての方向に広がる雄大で美しい景観と言つても過言ではありません。緑に覆われた四つの島を浮かべた湖を正面に、左手北の方角には、「蝦夷富士」と呼ばれる「羊蹄山」の秀麗な姿が、斜め右には噴煙を上げる「昭和神山」と「有珠山」、右手南の方角、内浦湾の彼方には「駒ヶ岳」が望まれ、「バランスの良い景観」「何回見ても飽きない眺望」と言われるのが納得できます。また、世界の主要国代表の方々に「日本の美しい自然を洞爺湖で感じてもらいたい」との安倍前首相の言葉も、素直に受け止められます。この素晴らしい眺望を是非多くの方に見ていただきたいと言うのは、我々道民の気持ちでもあります。サミットの主なテーマは「地球環境問題」で、テレビや新聞でも連日採り上げられています。会議

では、「セクター別アプローチ」、「キヤップアンドトレード」等の具体策を含め論議されるのでしようが、国際政治の場となると各国の利害が絡み、厳しい議論となるものが予想されます。しかし、議長国の日本としては、温室効果ガス削減について将来に向けての展望が少しでも開けるよう、広い選抜肢を視野に置き、リーダーシップを持って取り組んでいただき、北海道でのサミットが成功裡に終わる様願って止みません。

教室だより

平成19年度卒業生の進学就職状況について(報告)

電気工学専攻長 引原 隆士
 電子工学専攻長 木本 恒暢
 通信情報システム専攻長 小野寺秀俊
 電気電子工学科長 佐藤 亨

平成19年度の電気系教室卒業生の進学就職状況についてご報告致します。平成19年度の進学就職状況を纏めたものを表に示します。以下、学生の進学および就職の傾向などについて、入試の状況や大学院の改革なども含めて、修士課程学生、学部学生の順に簡単に説明致します。ただし、大学院については個人情報保護の問題もあり、専攻長が対応できる3専攻分

に限っております。

電気系教室への企業からの求人依頼は、産業界の好況も反映して昨年度に引き続き本年度も増加の傾向にあり、電気関係以外の企業からの求人も増えています。これは、洛友会の諸先輩方のご活躍により、電気電子技術が広く社会全般を支えるインフラとして定着し、さらに分野を越えて幅広い応用が着実に進んでいることによると考えられます。年々、企業からの求人時期が繰り上がり、3〜4月にはかなりの企業での採用活動(面接など)が本格化しています。

平成19年度の就職指導の方法は、ほぼ例年と同様に行われました。電気・電子工学専攻では従来通り、学生に対しても企業に対しても学校推薦と自由応募の何れか一方を選択してもらう方式で進めました。1月末に学生への最初の就職説明会を開催し、その後3回の進路アンケートの後に4月下旬に全学生に対して面接を行い、就職希望先を絞った後に学校推薦を行いました。企業によっては学校推薦と自由応募の両方で採用を行っておられたり、学校推薦前にジョブマッチングのプロセスで採用を内定される場合があります。推薦調整の際に若干の混乱が発生したことはやや残念でした。最終的には、約70%の学生が学校推薦により就

職を決定しました。

本年度の就職先としては、当初、自動車関連企業と二部の関西の電気系企業に人気が集まりましたが、ガイダンスと個別面談を経て、最終的には推薦枠に納まり、全般的にみると例年通り電気関係、通

信関係、電力関係、機械・自動車関係など各方面に分散する結果となりました。本年度の特徴としては、電気関連企業への就職者がやや減少し、自動車関連企業、シンクタンクおよび商社が増えています。情報学研究科では、一部企業

への集中もなく、昨年度と同様に通信関係と電機関係を中心とした各社に分散する結果となりました。情報学研究科通信情報システム専攻に所属する電気系研究室からは、修士修了生の就職者20名中の6名が通信・情報関係企業への

平成19年度卒業生進学就職状況

工学研究科(電気工学、電子工学)、情報学研究科(通信情報、知能情報、システム科学)、電気電子工学科

修了、卒業生数	修士	学部	進学・就職先
進 学	12		京都大学博士課程工学研究科電気系
	4		京都大学博士課程情報学研究科
		61	京都大学修士課程工学研究科電気系
		39	京都大学修士課程情報学研究科
		9	京都大学修士課程エネルギー科学研究科
		2	東京大学修士課程
		1	関西大学 法科大学院
		1	奈良先端科学技術大学院大学
	1	その他	
小 計	16	114	
官 公 庁 等 電 気 関 連	1	0	国土交通省
	41	6	アドバンテクト、STマイクロエレクトロニクス、キーエンス、シャープ、ソニー、東芝、日本テキサスインスツルメンツ、日立製作所、富士通、富士電機、松下電器産業、松下電工、三菱電機、横河電機、ルネサステクノロジ、ローム、フルキャストテクノロジー、イマジニアリング、日新電機、メイテック
通 信 ・ 情 報 ・ 放 送	12	2	NTT研究所、NTTデータ、NTTドコモ関西、NTT西日本、関西テレビ放送、DeNA、日本無線、テレビ朝日映像、ケイオプティコム
電 力	7	1	関西電力、中部電力、東京電力、
機 械 ・ 自 動 車 ・ 鉄 鋼	17	5	IHI、川崎重工、キャノン、島津製作所、新日本製鐵、JFEスチール、デンソー、トヨタ自動車、日産自動車、ファナック、富士ゼロックス、本田技研、三菱重工、京セラミタ、浅野歯車工作所、トヨタ車体
運 輸 ・ 鉄 道	2	1	東海旅客鉄道、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道
化 学 ・ 他 製 造 業 他	5	1	旭化成、旭硝子、大日本スクリーン、日揮、日本写真印刷
金 融 ・ 商 社 等	8	1	アサーDリトル、特許事務所、日興シティグループ証券、野村総合研究所、ボストンコンサルティンググループ、丸紅、リクルート
そ の 他		2	Armor Group Japan Limited、自然農法栽培家
小 計	93	19	
研 究 生 ・ 帰 国 等	1	0	
計	110	133	

就職、12名が電気関係メーカーへの就職、4名が進学となりました。博士課程に進学する学生の数は依然として少ないのが現状です。その理由の一つとして、日本の電気関係の企業では博士課程を修了した学生に対する人事の評価があまり高くなく、学生には博士課程に進学してさらにキャリアアップしたいという意欲が湧きにくいことが挙げられます。また、博士課程学生に対する経済的支援も課題の一つです。一方、先端技術の事業化を進めている企業の方々からは、今後の日本の電気、電子、通信分野をリードする人材として、博士課程修了者を積極的に採用するという嬉しいお話も伺うことができました。我々大学関係者としても、研究者、技術者として自立し、広い視野と国際性を備え、新たな先端分野を開拓牽引することのできる人材を育成することが重要と認識しており、大学院の教育の幅を広げた実質化を目指しています。そのために工学研究科では、平成19年度から複数教員指導制度を導入し、「主指導教員」に加え、博士課程進学時から2〜3名の「副指導教員」を指定し、専門分野での高い知識・能力に加え、境界領域に対して広い視野をもった人材育成を行う指導を開始いたしました。また、高い専門能力と

幅広い基盤を併せ持つPHDの育成を目指して、平成20年度入学の修士課程学生から「博士課程前後期融合教育プログラム（5年コース）」を導入いたします。これは、成績優秀で博士課程進学の高い意欲を有する学生を対象とし、4回生の研究室配属直後から博士取得を目指した長期的視野で研究に着手させものです。平成19年度に初めて本コースの入試を行い、16名の合格者を得ることができました。これに併せて大学院のキャリアラムも改訂され、自由度が増しています。数年後に、高い柔軟性と新分野開拓力を有する博士課程修了者を社会に送り出すことが、大学関係者の使命と考えております。

次に、学部学生の進学就職状況について説明致します。大学院修士課程には、昨年同様、約86%の学生が進学することになりました。学部学生の就職先企業に関しては、人数は少ないものの修士課程学生とほぼ同様の傾向が見られますが、大学院修了者に比べると大企業集中の傾向は低いようです。

電気系教室では、電気電子工学科を中心として、基礎学力の養成に配慮したカリキュラムの見直しや、電気系の人気回復を目指した取り組みを積極的に進めております。今後も、電気系教室の卒業生

の就職に対して、洛友会の会員諸兄の絶大なるご支援をお願い申し上げます。

電気電子工学科交流会の開催

平成19年度の電気電子工学科交流会が2月15日（金）の午後7時よりがんこ三条本店にて開催されました。

交流会とは、研究室配属を控えた3回生と教員の交流を目的として、学生の企画により2004年度から始められたもので、今回で第4回を迎えました。

今年は昨年を上回る110人



上もの教員、学部生にご参加いただきました。また、長尾真前総長、松本紘副学長にもお越しいただきました。

はじめに学科長の佐藤亨教授に乾杯の音頭をとっていただき、教員と学生は研究室の様子や研究の内容や大学生活などについて、ビール片手に大いに盛り上がっていました。また長尾先生、松本先生からお言葉をいただき、偉大な先輩のお言葉に一同聞き入っていました。

最後は電気工学専攻長の引原隆士教授に中締めをいただき、集合写真を撮ってお開きとなりました。

終始なごやかなムードの、いい会になりました。

最後になりましたが、お忙しい中足を運んでいただいた長尾先生、松本先生をはじめ、参加して頂いた教員の皆様、学部生の皆様に心より感謝申し上げます。

また、運営にあたり洛友会から補助金をいただきました。厚く御礼申し上げます。

交流会実行委員

野村勝也（平20年卒）記

卒業生送別会および新入生歓迎会の開催

電気電子工学科では、平成18年

度より洛友会との共催で卒業生送別会と新入生歓迎茶話会を開催しています。

今年は3月25日に卒業生送別会を工学部8号館共同1講義室で開催しました。当日は、全学の卒業式に引き続き電気電子工学科において学科長より卒業証書を授与し、その後送別会を開催しました。卒業生のほぼ全員に加えて教職員約10名が参加しました。木村代表幹事より祝辞と電気系教室および洛友会の歴史や意義について詳細なご説明を頂きました。社会へ出た後の情報交換の場として同窓会が持つ重要性など、若い世代に欠ける視点を指摘して頂きました。その後約1時間活発な懇談を行いました。



4月7日には、入学式、学科ガイダンスに引き続き工学部8号館共同1講義室で新入生歓迎茶話会を開催しました。こちらにも新入生全員と約10名の教職員が参加しました。長尾会長より第1期の学生会員に対する祝辞と洛友会に関するご紹介を頂きました。今の時代を生きるエンジニアとして必要なのは自信であること、それを得るための勉学の価値など、貴重な訓示を頂きました。その後、ぎやかに懇談を行いました。今年の新入生はなかなか元気がよい印象で、学科の選択についても積極性が感じられました。

今後も学生会員制度の趣旨に則り、各種の催しを各学年で積極的に開催して、学生と教職員・卒業生の交流を深めて行きたいと考えています。

学科長 佐藤 亨

教員の異動

退職 (平成20年3月31日付)

・電子工学専攻

久保 寔助教 (橘研)

転出 (平成20年4月1日付)

・電気工学専攻

舟木 剛准教授

(引原研) 大阪大学

・電子工学専攻

川畑 弘助教

(ベンチャー・ビジネス・ラボ
ラトリ)、松重研) 文部科学
省科学技術政策研究所

昇任 (平成20年4月1日付)

・電子工学専攻

酒井 道准教授 (橘研)

着任 (平成20年1月1日付)

・電子工学専攻

龍頭啓充 助教

(光・電子理工学教育研究セン
ター、高岡研)

(平成20年4月1日付)

・電気工学専攻

雨宮尚之 教授 (超伝導工学)

・電子工学専攻

掛谷一弘 准教授 (鈴木研)

・システム科学専攻

大羽成征 講師 (石井研)

・電子工学専攻

西 佑介 助教 (木本研)

・エネルギー理工学研究所

山本 聡 助教 (佐野研)

会員寄稿

かごんまにきやんせ!

川内野寿博

(平4年卒・九州支部)

会社の異動に伴い、平成17年に鹿兒島に来てから、もうすぐ3年になるうとしている。10年以上前にも約2年間鹿兒島で勤務した経験があり、これを合わせると鹿兒

島勤務は約5年で、私の会社生活の中でも2番目に長い愛着のある土地である。

鹿兒島といえば、「桜島」、「焼酎」、「西郷隆盛」のいわゆる「3S」が有名だが、最近では、「スローライフ」、「スローフード」、「SPA(温泉)」、「新幹線」の「4S」を加えた「7S」をテーマに、地域活性化への取り組みや情報発信がなされている。

そこで、私も鹿兒島在住者の一人として、多くの方々に鹿兒島に足を運んでいただき、鹿兒島が活性化する一助になればと思い、これまでの生活の中で感じた「7S」について、この場を借りて紹介させていただきたい。

なお、表題を読んで、?????と思われる方も多いであろう。「かごんま」は「鹿兒島」、「きやんせ」は「来て下さい」という意味の鹿兒島弁である。

まずは「桜島」であるが、私の住むアパートからも一望でき、その雄大かつ美しい姿は毎日見ても飽きない。特に私が好きなのは、冬にうつすらと雪化粧した姿である。また、薩摩半島側の鹿兒島市と大隅半島側の垂水市を結ぶフェリーに乗り、うどんを食べながら眺める桜島も格別である。

次に「焼酎」といえば、鹿兒島は焼酎の本場だけあって、居酒屋

で酒と言って注文すれば、焼酎が徳利に入って出てくる。アルコール飲み放題を注文しても、ビールは1杯のみの場合が多いので、注意が必要である。なお、鹿兒島の居酒屋では「だれやめセット」なるメニューをよく見かけるが、鹿兒島弁で「だれ」は「疲れ」、「やめ」は「止め」で、「疲れを癒す」という意味であり、いわゆる晩酌セットのことである。3M(森伊蔵、魔王、村尾)を始めとした、全国的に有名なプレミアム焼酎は、鹿兒島県内でも入手しにくいのが実情であるが、通りの片隅にあるような小さな酒店で何気なく置いてある場合もあるので、足繁く酒店に通うのがプレミアム焼酎の定価入手の秘訣のようである。

続いて「西郷隆盛」。ここでは、西郷さんも登場人物の一人である今年のNHK大河ドラマ「篤姫」にちなんだ話題を紹介する。1月に放送が始まった「篤姫」は、全国的にも視聴率が好調なようであるが、篤姫の故郷である鹿兒島では、高視聴率を追い風に、観光キャンペーンを行っている。1月には鹿兒島市に「篤姫館」、指宿市に「いぶすき篤姫館」がオープンし、予想よりも多い入場者数で賑わっているようだ。私も先日「篤姫館」に行ったが、ドラマの解説や大奥での篤姫の部屋の再現セッ

ト(セット)に上がり、着物を羽織って記念撮影ができる)などがあり、楽しめた。また、篤姫や天璋院の名を付けた焼酎やお菓子など、関連グッズもいたるところで販売されている。篤姫ゆかりの地を巡るバスコースなどもあるようなので、ドラマファンの方は、ぜひ一度篤姫探訪の旅に足を運んでいただきたい。

「スローライフ」は、今の生活では残念ながら実感できていないのでパスさせていただきます。次に「スローフード」。日本でも有数の畜産業・漁業・農業生産地を有する鹿兒島県は、黒豚、黒牛、地鶏、かつお(鰹節、たたき)、きびなご、さつま揚げ、カンパチ、さつまいも、桜島だいこん、黒酢、茶などの食材が豊富で、これらの食材を使った鹿兒島ならではの料理は、居酒屋などでも気軽に味わえる。私のお勧めは黒豚しゃぶしゃぶと地鶏のさしみである。

次に「SPA(温泉)」。温泉といえば、旅館・ホテルの温泉を連想する方が多いと思うが、鹿兒島市内には公衆浴場の温泉が多数あり、毎日のように気軽に入れる。また、篤姫が幼少を過ごした指宿市には砂蒸し温泉(隣の山川町にもある)、霧島市には霧島温泉や、坂本龍馬が日本初の新婚旅行で訪れた塩浸温泉など、鹿兒島県内には

いたるところに温泉があるので、温泉ファンが鹿児島で温泉に入りそびれることはまずないだろう。

そして「7S」の最後は「新幹線」。九州新幹線は、博多駅〜鹿児島中央駅間を最速約1時間20分結ぶ鉄道で、平成16年3月に新八代駅〜鹿児島中央駅間が部分開業し、平成23年に全線開業予定である。ちなみに、鹿児島中央駅は以前は西鹿児島駅と呼ばれており、部分開業に合わせて改名されている。また、駅ビルは「アミュプラザ鹿児島」という複合商業施設に変貌を遂げており、建物上部には「アミュラン」と呼ばれる観覧車が設置されている。この観覧車からの桜島の眺めもいらしい(残念ながら私はまだ乗ったことがない)。この部分開業により、博多駅〜鹿児島中央駅間の所要時間は、従来の約3時間50分(在来線特急)から、最速2時間12分に短縮された。そのおかげで、従来は宿泊を伴っていた福岡〜鹿児島間の出張は、今や日帰りとなっている(嬉しいやら悲しいやら...)。新幹線車両の愛称は「つばめ」で6両編成、全車両とも4列シートとなっており、ゆったり座れる。また、シートを始め、車両の至るところに木が素材として使われており、和風テイストにあふれている。

最後に、「7S」ではないが、電気系教室同窓会らしく、電気に関わる話題に少し触れる。鹿児島県には、原子力・火力・水力・地熱・内燃力・風力と、九州でも随一の多様な電源がある。特にここ数年の風力発電の導入は目覚しく、NEDOによると、平成19年3月末時点の鹿児島県内の風力発電導入量は、西日本一の86、105kWである。平成20年10月には、定格出力50、400kWの長島風力発電所が運転開始を予定しているなど、導入量はさらに増える見込みである。

以上、「7S」を中心に鹿児島島の紹介をさせていただいたが、世界遺産の屋久島など、鹿児島の見所は他にもたくさんある。また、鹿児島の方の人柄も良い。百聞は一見に如かず、ぜひ一度鹿児島へ足を運んでいただけると幸いである。

「アドヴィックスと私」

酒井 和憲
(昭55年修・中部支部)

〈私の学生時代〉

私が最初に京都大学に入ったのは理学部でした。小学校の頃からアマチュア無線などが好きで、電子工学をやりたいと思っていたのですが、高校の

頃に相対性理論や素粒子論に魅せられてしまい、こしかないと入学しました。

グライダー部で部活動に明け暮れた教養部時代を楽しんだ後、最初に通った学部の実験ではNMR(核磁気共鳴)の基礎研究をしていました。実験装置のほとんどは自作で、回路設計をしたりプリント基板を何度も作り直したり、物理学の実験なのに大半を電子工学に費やしていたようです。大学院を考える時期になって、自分は理論より実用の学問が向いていると判断し、同じ下宿に電気系の学生の同期が4人いたこともあって、電気系の大学院に進学しました。当時の川端研究室では、表面物性やX線強誘電体薄膜の光集積回路の基礎研究をしていました。ここでは実験試料を作るための薄膜製造装置や真空ポンプ、光学実験を行うレーザ、発熱の大きなレーザを長時間運転するための冷却装置の導入にかなりの時間を費やしました。

って、トヨタ自動車に入社を決意したので。

思い返せば、自然の風で人と一体となって飛ぶグライダーにおいても、離着陸するにはウインチや自動車を使い、仲間のチームワークに助けられて飛んでいました。こうした経験も自動車会社を選んだことに影響したかもしれせん。余談ですが、先ごろ受診した人間ドックでは、脳の血管の断層撮影にNMRの技術が使われていました。自分の学生時代の基礎研究が、今や医学でも活躍しているわけです。また、自動車ではハイブリッド車のプリウスをはじめ、多くの安全・環境・利便装備等、もはや車は電子装置の塊になっています。当時では全く予測できませんでした。

トヨタ自動車から、

アドヴィックスへ

私の若い頃の仕事はABS(Anti-lock Brake System: ブレーキ時の横滑り防止装置)の開発でした。当時エンジンの電子制御が始まったばかりで、ブレーキに電子を使うなんてとんでもない時代だったと思います。「壊れてもブレーキは利くこと！」と重役からフォローされることはありましたが、オプション設定ということもあり、担当の私に大方任されていた

ました。人の命を救うという使命感もあり随分頑張っていました。が、機械主体の車両構造の中に、弱い電子部品を組み込んでいくことは苦勞の連続でした。

D・カーネギーの『道は開ける』(創元社)という本があります。学生時代に読んだときは分からなかったのですが、原題“*How to Stop Worrying and Start Living*”のとおり、自分が置かれた状況が次々と出てきて参考になり、名著も読み手の状況で評価が変わるものだと痛感しました。いろいろな職場を経験し、職位も上がるにつれ、将来の車の開発を推進するためのマネジメントに関わるようになりました。巨大な開発組織のベクトルを合わせていくことは、楽しさがある一方、技術面の苦勞と多部署・人の苦勞が絶えませんでした。自分の将来を見つめ直そうと考えていたちょうどその頃、突然、株式会社アドヴィックスに執行役員として転籍を命じられました。アドヴィックスは、ブレーキに関するトヨタ系各社の機能を2001年に集約した、ブレーキ専門の開発・販売会社です。従業員1000人ほどで、部品の企画・開発から車両の評価まで行っています。最近になり自動ブレーキが実用

化され、また全ての運転状態での横滑り防止装置 (ESC: Electronic Stability Control) の法規義務付けが近づいていることで、たいへん活気のある会社です。

自分が若い頃夢見た「人に安心と利便を与える自動運転」の一端を担うことができ、技術者としてはたいへん楽しみです。自分が育つたように若い人が育っていきける会社になりたいと思っています。

巡り巡って今、私はこの会社で今までの経験をつぎ込める本当にやりたかったことをやっているのかもしれない。

自分は本当に何がしたいか、分かってくるには多くの時間と経験が必要です。しかし、登山口が違っても同じ頂上を目指すように、人間いろいろ学んでくるとどこから入っても同じような事象が現れてくるように思います。ただし、大事なはその登山口一つ一つを大切に、あるいは楽しみ、頑張ることではないでしょうか。

〈結び〉

日ごろ漠然と考えていたことを、この誌面を借りてまとめさせていただきますました。少しでも若い方の参考になれば嬉しいです。また、諸先輩のご意見を賜りたいと思います。ありがとうございます。

洛友会東京支部 役員を務めて

水本 政宏

(昭63年卒・東京支部)

私は現在、洛友会東京支部の総務幹事を務めている。支部の会務全般の処理を任とする役員である。洛友会会員にあって、同窓会の役員とはどんなものかご存じない方も多かろう。実際、私がそうであった。

東京支部は、全国にある洛友会支部の一つで、関東地区に住まいを持つ京都大学電気系教室出身者を主会員とする。東京支部には、支部長、副支部長、総務幹事、会計幹事、庶務幹事、監事の6名の役員があり、任期を1年としてそれぞれ

の会務に当たっている。現在は、昭和41年卒の代が支部長(向井支部長)、昭和42年卒が副支部長(間宮副支部長)、昭和43年卒が監事(松田監事)を担当している。総務幹事は昭和63年卒、会計幹事は平成元年卒(菅谷会計幹事)が当たっている。庶務幹事は平成16年に誕生した役員であり、総務幹事の同期(三木庶務幹事)が担当することが多い。

東京支部会則にもあるのだが、副支部長は翌期の支部長に、会計幹事は総務幹事に就任することが推奨されており、これまでもほぼ

例外なくこれに従ってきた。監事が副支部長に就くことも慣例化しつつあり、来期もその予定である。だが、他の3役員、特に会計幹事については、その内定まで時間を要することが多い。

2年前もそうであった。同窓会というものに全く関与してこなかった私にいきなり会計幹事就任の打診が届いた時には、「まさか、何で？」と面食らった。ただでさえ、入社後16年で多忙を極めているというのに、新たに重責を背負い込むなんてとても考えられなかった。最初は断ったが、当時の役員からの度重なる説得に最後は就任を決断した。最初の打診からひと月以上も経っていた。

会計幹事の仕事は、総務幹事を補佐し会計事務を処理することにある。ほとんどの支部活動は総務幹事がこなすことから、翌年に備えてそれらの仕事内容を覚え、支部活動を理解すること。これが何より重要である。会計事務としては、口座開設と同時にあらゆる金銭のフローを管理し、総会に向けて決算報告と翌期の予算計画を策定する。

しかし何と言っても、会計幹事のメインイベントは、実質的な初仕事となる「旅行・見学会」の幹事である。東京支部では伝統として、副支部長と会計幹事が担当す

ることになっている。私の場合、ここで初めて、同窓会役員の大変さを身をもって知った。二千名近くの支部会員への案内送付、観光バスの調達、昼食会場や観光スポットのアレンジ。しかも送った案内は宛先不明で大量に返送されてくる始末。どれもこれも未経験のことばかりだ。これらを仕事の合間に行うのである。しかし、参加された50名程の大先輩が旅行・見学会を毎年楽しみにし、このときも本当に堪能されているのを目の当たりにして、解散時には安堵の気持ちだけでなく大きな充実感を覚えた。私はこの瞬間に名実ともに東京支部役員になったのだと思う。そして総務幹事になる覚悟とともに自信も生まれた。このことは現会計幹事も同様に感じたことを確信している。

切り盛りすることになる。昨年秋季には「秋の講演会」を成功裏に終えることができた。年明けには若手幹事会で今後の活動につながる積極的な議論もできた。

これまでも一つ一つの行事を網渡りでごなしてきたが、いよいよ総務幹事として最後の大事な、総会を迎えることになる。諸々の準備で最も神経を使い、労力を要することになるだろうが、気持ちは充実している。ぜひ成功させて、来期へとつなげたい。

最後に、この2年間、洛友会東京支部の役員を務めさせていただき、大きな財産を得られたと本当に感謝している。当初はあれほど固辞した会計幹事就任であるが、受諾してよかったと今になって思う。確かに会社だけでなく家族にも大きな負担をかけ、さまざまな重圧の中で会務をこなしてきたのが実態だが、それと引き換えにすばらしい交流を得た。普通であれば到底面識を持つことのできない一流企業の経営者や著名な先生方と個人的なやり取りをさせていた

だいたり、総会や講演会後の懇親会等で大先輩とたくさんのお話をさせていただいたりした。そして何より、同じ釜の飯を食った前期と今期の東京支部役員のみなさんとは深いつながりができたと思う。これらを大事な財産として、

今後歩んでいきたい。ありがたい。うございしました。

大学の電気工学系が抱える問題

岩 曾 弘三(昭28年旧卒)

2007年7月17日のフラインシアル・タイムズ(F.T)紙に、韓国の大学希望者に関する興味深い記事が掲載されました。その要旨は次の通りです。

「有名大学の理工系よりも、有名でない医科系の大学を選ぶ。理工学系がこの5年間に27%も減少した。科学技術省は、2014年までに4500人の理工系の博士が不足すると推定しているなどと言っている」

私の高校の同じクラスの約40名から、医学部に進学したのは14名で工学部は16名でした。京大の医学部の定員は、55年前も今も100名、電気情報関係は、60名が220名に膨れ上がっているようです。世の中の物価は、需給関係で決まることは、給与にも当てはまるでしょう。同期の医者たちは、まだ何らかの仕事をしていて、私が毎月世話をしている同窓会に誘っても出てきません。その内の一人は、西洋医学と東洋医学を合体させる仕事を2006年から始め、「統合医学元年」と称して、

アジア(特に菓草が豊富なネパール)やオーストラリアを飛び歩いています。

日本では定年制を当然のものとしていますが、そもそも、その発想は、1889年にドイツのビスマルクにより、続いて1908年に英国のロイド・ジョージによって考えられ、年金を与えて過酷な労働から解放するとの趣旨であったと言われ、いまの日本の定年と全く逆の発想です。最近、英国では「年齢差別禁止法」が審議され、年齢や肌の色による差別が無い社会が、真に文明化した社会であるとしています。またビジネスウィーク誌に、いくつかのアンケート欄が掲載されていて、そこにマル・バツを付けていって、その数に応じて「あなたは、そろそろ仕事からの引退を考えた方がよい」などと自己判断させる記事があります。

昔は、医学部へ行くか工学部に進むかは、全く同じ条件で優劣無く選択し、その結果は上記の通りで、私も最後まで迷いました。数年前の洛友会東京支部のバス旅行会で自己紹介が行われました。昭和23年卒の人々は就職したとたんに、「あそこで工場を作っていい」とか「あそこに発電所を作った」と命令されたとか口に発表されたのに驚きました。戦後の人材

不足と復旧のために、これほどの大仕事を任せれば、奮起して大いに頑張ります。私が昭和30年にN.T.Tに入社したときも、社員16万人に対して技術系約30名の採用のため、最初からN.T.Tを支えるとの気持ちでした。いまのように技術系が無数といえるほどに採用されれば、仕事に対する覚悟も熱意も違ってくると思います。電話網で中心的技術であった電話交換機も大きく分類して3世代があり、初期のダイヤルするごとに1段階づつ進むステップ・バイ・ステップ交換機の次は、ダイヤルした情報をリレー回路で蓄積し、別のリレー回路で判断するクロスバ交換機、最後はクロスバ交換機のリレー部分をソフトウェアに置き換えた電子交換機です。国内用のステップ・バイ・ステップ交換機のある機種は、通信省のただ一人の技師により発明されたりしました。私が昭和35年頃にクロスバ式市外電話交換機の開発に従事したときは、N.T.T側は僅か5名に過ぎず、対応するメーカー側は背後にいる人は別として表面に出てきた人数は1対1に対応の5名に過ぎませんでした。その後、N.E.Cに移ったときの電子交換機用のソフトウェア開発要員は1000名にも達していました。個々の技術者のやり甲斐が急速に低下しています。

先進国の電気関連分野で活動するに値するのは、途上国でまだ生産できない分野か、国内が外国から隔離された分野だと思えます。電気通信機器にしても、昔は先進国のみが生産していたので、メーカー間の競争はあったにしても先進国価格で、途上国へも売ることができました。一方、完全に均一化してしまった日本とは違い、大都市から農漁村までの多様な条件を備えた中国は、合併により先進国の技術を取り入れ改良を加えて、各種の条件に適應する機器を安価に製造して、昔の日本に代わって周辺国へも大規模に輸出しています。テレビなどの家電製品も、日本が韓国や途上国との激しい競争を続けるのであれば、日本人の給与もそれらの国の人々のそれに引張られて、大きく伸びることは困難でしょう。かつては日本でも広く採用されていた通信機器を製造していたシーメンス社では、いまは通信機器製造部門の売却に熱心で、まだ先進国価格で販売のできる医療機器、鉄道車両、原子力発電にシフトを続けています。世界最大の通信機器メーカーのエリクソンですら常に苦闘し、大西洋を隔ててのルーセントとアルカテルの合併も、大きく人員整理をして赤字のままです。米国は、家電製造部門が消滅し、欧州でもやっ

とフィリップが生き残っているに過ぎませんが、医療機器へシフトしようとしています。HPやデルはパソコンで大きな市場を占めています。製造は台湾や中国に依頼してしまっています。航空機や自動車のように先進国価格で勝負ができる分野は、いまは有利な立場にいますが、中国がチベットのような空気の薄い空港でも困難なく離着陸できる航空機の開発に着手したり、自動車の輸出を始めようとしていますから、いずれ通信機器や家電と同じ方向を辿ることになるでしょう。先進国の電気機器メーカーは常に、途上国と同じ分野での競争から卒業し、途上国の先を目指した製品開発に集中すべきで、その方向を失うと従業員の待遇の改善も困難でしょう。

さらに問題なのは、ソフトウェアです。海軍戦術に相当し、横並びのあまり達成感のない仕事者が大部分です。欧州で最大の技術者協会(I.E.T)の調査によると、14-15歳の若者に将来何に成りたいかと尋ねたところ、情報技術は10位以内に入らず、ホテル・マネージャの次にきた。2004年に米国は、約14万人に、技術、コンピュータ科学及び情報技術の学士号を与えたが、インドでも約14万人、中国では約36万人に達している。しかし、EU全体では、僅か

2%、英国ですら8%しか、これらの国へアウトソースしていないと報じています。日本の高級カメラは国内で、一般クラスのカメらはアジア各国で製造するように、電気系の優秀な卒業生には、平凡なソフトウェアを作らせないようにする努力が産業界に必要でしょう。

一方、電力事業、鉄道事業、通信事業などは、途上国からの競争から絶縁されているので先進国価格を維持でき、大学卒の処遇も比較的恵まれると思います。これは、日本の医療費が外国の医療費と無関係に設定できることと同じでしょう。

医師免許を取得したとたんに診療報酬は老練な医師と同じ額を得られるのに対して、優秀な工学系の卒業生には差別を付けさす社会にすべきでしょう。工学系の学生も多く進むビジネス・スクール卒業生の5年後の平均年所得の比較表を新聞が大きく報道し、1000万円を遥に超えるスクールが多数あることや、NHKの語学講座で説明されるようにフランスの製造会社のトップは技術者であり、そこで総務的仕事を担当して社内運営するのが業務系であるのも示唆を与えてくれます。また、私が20年ほど前に勤務した大手メーカーの系列会社は、電気系の大学

卒を70名あまり採用し、社内教育後の試験では、10点から95点と大変な格差がありました。このような状況にも関わらず、新規採用者がある期間は給与や処遇で差別を付けないのは、優秀な人の能力を活用せず意欲を阻害していると思います。一つの集団にすることに、優秀な人でも平均値に持つて行かれてしまいます。

2004年には、中国の上海交通大学が人海戦術で多くのデータを集めて、世界500大学を選定しました。日本では100位以内に北海道と九州を除く旧帝大が入り、その他の大部分は400位以下ですが、全体で33校が含まれました。これにより、EUでは大学のあり方が大きく論議されました。

英国では「1960年代の平等主義を、新しいエリート主義のために放棄すべき」と論議されました。吉田茂氏が駐英大使時代に日本から送られてくる新聞は読まなかったが、ザ・タイムズは毎日読んでいたと言う新聞が、毎年、世界の大学200校のランク付けをしています。最近の比較では、日本からは11校が含まれています。東大が17位で京大は25位で、100位以内に阪大と東工大が入っています。注目すべきは、香港大学、シンガポール国立大学、北京大学、香港中文大学、清華大学、

ソウル国立大学、香港科技大学、南洋工科大学(シンガポール)の8大学が含まれます。さらに200位までには、日本から7大学に對して、中国、韓国、台湾、東南アジアから6大学が入ります。ウェブで調査した結果、これ以降の400大学までには、日本の12大学に對して、前記のアジア地域からは19大学が入ります。その中には、マレーシアの4大学、タイとインドネシアの各2大学、フィリッピンの1大学が含まれます。

これは日本の700余りの大学の大部分が、マレーシアやタイなどの一流大学よりも劣ることを意味します。なお、中国人にとって

は英語で授業が受けられる安価な留学先の香港以外に、他のアジア人も多く留学すると言われるオーストラリアは100位内に8大学が入り、日本の4大学を超えます。ここ10年ほどの米国のI E E E論文に大きな変化が発生しています。日本は相変わらず稀に現れるに過ぎないのに対し、アジアの途上国やイランの大学からの発表が急に目立つようになったの符合します。

ある仕事を与えるように改めれば、企業も若い人の創意と活力を生かして国際競争にも勝ち続けることが可能になるでしょう。60万人が留学中で、そのうち20万人が米国と言われる中国人の論文には、衛星間光通信やフェムト秒デバイスなどの高度の内容も多く含まれています。

最近、欧州では必ずしも評価が高くなかったスペインが非常な活況を呈し、英国の移动通信会社まで買収をするなどになったのは、米国留学組が社会の重要な地位に就ける年代になったからだと言われ、中南米についても同じことが言えるとのことです。

(若い方々へ…読売新聞が1000万部、朝日が800万部、日経が200万部台と部数の多いのを自慢にしていますが、英国に本社のあるFT紙は、日本を含む世界21カ国で同時印刷しています。総発行部数は50万を切るのとことです。夜の早い時間帯のTVが示すように、購読者が多ければ、その底辺の人のレベルに合わせ低俗でローカルのになり、日本地方紙になります。逆に部数が少なければ、内容が高まります。FTは全ページに世界事情を平等に取り扱い、英国を特別扱いしません。例えば、アフリカに関心があれば、毎日何らかのアフリカに関する記

事が見つかります。世界のインターネットは、このような情報源をもとに競争しています。頑張ってください。このエッセーもFTの記事に多くを頼っています。)

本部だより

役員会報告

平成19年度役員会は、去る2月2日(土)午後2時より、長尾会長、本部役員、および四国支部を除く8支部長の総勢15名の出席を得て開催されました。木村幹事長より、近藤名誉会長はじめ欠席役員の近況や状況の説明、会長の開会挨拶の後、議題の審議に入りました。

平成20年度事業計画案並びに予算案については、学生会員制度の発足に伴って、学生会員向け事業のための「学生会員補助費」の説明があり、了承されました。20年度は役員改選の年度ではありませんが、任期満了による鈴木幹事の退任と佐藤学科長の幹事就任が報告されました。また、5名の新任教員の推薦会員新規加入が承認されました。

教室の現況、各支部活動の状況などの報告があり、定刻の午後6時に終了しました。

本部総会開催のお知らせ

平成20年度本部総会は左記により開催されます。多数の方々のご来場をお待ちいたしております。

記

日時 平成20年5月18日(日)
16時(関西支部総会終了後)
場所 京大時計台ホール
TEL 075-753-2285

支部だより

「秋の例会」報告

中部支部恒例の家族同伴での秋の例会が、12月1日(土)に実施された。今回は、三重県の津市と伊賀市にまたがる青山高原にあるウインドパーク美里と伊賀上野公園を巡るバス旅行であった。例年は10月か11月に実施していたが、3年振りのバス旅行で準備着手が遅れたせいもあり、12月に入ってから旅行となり、天候が一番の心配事であった。幸い当日は快晴で、名古屋ではコートも不要かと思ふほどの暖かさで、事務局一同胸を撫で下ろした次第であった。ウインドパーク美里は、中部電力グループの株シートックが建

設・運営しており、2、000kW

の風力発電機が8基設置され、平成18年2月より運転されている。最大出力1万6kWで年間発電量が約4千万kWhとなっており、年間利用率で28%を越える全国トップレベルの風況となっている。発電設備は、タワー高さ60m、ブレード(羽根)の長さ39m、ローター直径80mと巨大なものであり、建設に当たったの運搬には非常に苦労されたことであった。特にブレードは一本ものであるため、運搬途中では立てて運ぶことを前提にして、切り土による道路建設の環境影響低減が図られている。我々が見学を利用したバスは、当日の参加者20名がゆったり座れる程度の中型バスであったが、管理棟のある最奥部まで行くには、先頭や腹・尻といった部分を擦りそうな箇所が何箇所もあり、ドライバーが大変苦労されていた。工事用車両はさぞかし大変であったろうと実感した次第である。管理棟サイトには風力発電機も1基あり、実際に回っている風車を真下から見たり、下部直径約4mのタワー内部にも入れていただいたりして、その迫力を存分に体感することが出来た。休みの日にも拘らず対応していただいた株シートックの掘出企画部長、中西風力発電部長はじめ関係者の皆さんに深く

感謝する次第である。

この青山高原一帯では、旧久居市(現津市)開発・運営の久居榊原風力発電施設(750kW×4基)、津市・伊賀市・シートックによる第三セクター(株)青山高原ウインドファーム(750kW×20基)も運転中であり、更にシートックによるウインドパーク笠取(2000kW×19基)も現在建設中である。ウインドパーク笠取はこの10月に着工したばかりであり、平成22年より順次運転開始の予定である。完成の暁には、この地区は総基数50基を越す全国屈指の風力発電地帯となる。地球環境問題が注目される現在、その対策としての再生可能エネルギーの代表地点となることが期待される。

青山高原視察の後、伊賀市内の



老舗「金谷」にて少し遅めの昼食として伊賀牛のすき焼きを堪能し、忍者屋敷見学、伊賀上野城散策をしながら帰途に就いた。

松浦 昌則(昭35年卒) 記

中国支部 第6回 企業見学会開催

中国支部では、平成19年12月15日(土)に「第6回 企業見学会」を開催しました。

今回は細田支部長以下22名と、多数の会員に参加していただき、呉市の株式会社IHI呉第2工場を訪問しました。

訪問先の株式会社IHI(旧社名・石川島播磨重工業株式会社)は、重工業を主体とする製造会社で取扱製品は多岐に渡ります。特に、呉第2工場で生産されているジェットエンジンでは、日本の生産の60〜70%を担うトップメーカーです。

当日は、直接、大谷呉事業所長よりパンフレットとパワーポイントを使用して概要を説明していただいたあと、2班に分かれ、工場内を案内していただきました。工場内は整理整頓が行き届き、高度な作業環境が維持されています。また、ジェットエンジンは精密かつ頑丈に、非常に高度な品質管理のもとで作られていることを



垣間見ることができました。

株式会社IHI様には、ご多忙中にもかかわらず丁寧にご案内いただき、会員一同、ジェットエンジン生産の知識を深め、感銘を受けることができました。

見学会後、呉駅近辺の「海軍さんの麦酒館」で昼食会を行いました。会話がおおいに盛り上がり、会員間の交流を深めることができました。

いったん解散後、希望者で「てつのくじら館」および「大和ミュージアム」を見学しました。

最後になりますが、今後ともより多数の会員に参加していただける企画を実行し、洛友会中国支部の活動を盛り上げていきたいと思

平岡 正憲(平10年卒) 記

中国支部 第11回ゴルフコンペ開催

中国支部では、平成19年10月20日(土)広島佐伯カントリー倶楽部(広島県廿日市市)にて第11回ゴルフコンペを開催しました。

年1回の恒例行事となっている当ゴルフコンペも今回で11回目となり、30代〜80代まで全世代に渡る幅広い年齢層の方々にご参加いただきました。

大会当日は好天にも恵まれ、7名の参加者は優勝を目指して真剣に、かつ楽しく和やかにプレーを満喫でき、プレー後の表彰式を兼ねた懇親会でも大いに盛り上がりました。

今回の優勝者は、前日の練習で手の豆を潰しながらも気迫でプレー



1をされた井上靖彦氏(昭和36年卒)、第2位は惜しくも優勝を逃した細田順弘氏(昭和40年卒)、第3位は僅差で牧征滋氏(昭和38年卒)でした。また、その他の参加者も全員、特別賞または飛び賞を獲得し、大変充実した大会となりました。

当支部のゴルフコンペは恒例行事としてさらに充実していきたいと考えています。次回以降も支店全員にご案内しますので、多数ご参加をいただきますようお願いいたします。

藤山 徹 (平9年卒) 記

支部総会のお知らせ

平成20年度の各支部総会は左記の日程で開催されます。場所・時間など詳細は各支部幹事の方よりご案内があります。ふるってご出席ください。

5月17日(日) 北海道支部

連絡先: 木元伸一氏

kimotos@jcom.home.nj.jp

5月18日(日) 関西支部

連絡先: 内田堅二氏

uchidakenji@d4.kepco.co.jp

5月29日(木) 中国支部

連絡先: 岩見紀征氏

261326@pnet.energia.co.jp

5月30日(金) 四国支部

連絡先: 宮谷 茂氏

miyatani150666@yondenco.jp

5月30日(金) 九州支部

連絡先: 岡崎幸治氏

Kouji_Okazaki/KYUDEN

@kyudenco.jp

6月7日(土) 北陸支部

連絡先: 林 正則氏

hayashimasanori@rikuden

co.jp

6月14日(土) 中部支部

連絡先: 安藤和史氏

kazushirandou@nrr.meietsu

co.jp

6月15日(日) 東京支部

連絡先: 水本政宏氏

webmaster@rakuyukai.org

6月21日(土) 東北支部

連絡先: 秋山康人氏

W840261@tohoku-epco.co.jp

事務局 記

事務局だより

平成19年度会費納付状況報告

毎年行っている2月末現在の会費納付状況についてご報告いたします。

2月末現在の会員数は、7,052名で会費を納めて頂いた会員数は、2,282名でした。前年より57名の増加となりました。納付率は、32.36%で前年度よりわずかですが減少しています。

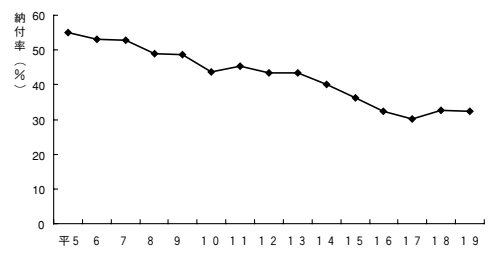


図1. 年度別納付状況 (平成20年2月末現在)

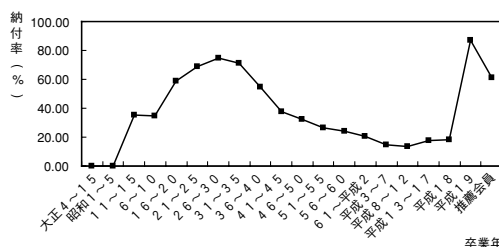


図2. 卒業年別納付状況 (平成20年2月末現在)

図1は年度別の納付率、図2は卒業年別のグラフですが、平均値で前年より0.38%減少しています。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

事務局 記

訃報

講昭15 黒川 秀夫 20・2・26
昭28 金田 佳郎 19・11・17
昭33 八木 晋一 20・1・23
昭38 山下 一郎 19・11・5
以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

cue (電気関係教室技術情報誌) No.19はまもなく発行されます。目次は以下の通りです。内容は、HPにも掲載されますのでこちらもご覧下さい。
<http://www.kuee.kyoto-u.ac.jp/cue/>

巻頭言

「積極的な情報発信を」

平田 康夫

大学の研究動向

「フォトニック結晶工学の進展」

産業界の技術動向

「受動電子部品の動向」

新設研究室紹介

博士論文紹介

高校生のページ

「脳の謎に挑み医療や福祉に貢献する脳機能工学」

学生の声

教室通信

賛助会員の声

学科長 佐藤 亨

新日本製鐵株式会社

編集後記

新田 博之